

勿凝学問 332

ゲゲゲの女房と経済成長
消費の飽和と消費性向の国民所得への累積効果

2010年11月19日
慶應義塾大学 商学部
教授 権丈善一

三田祭期間中で大学は休み。ゆえに、ちょいと暇にしているので、一筆。

今年の上半期に大ヒットしていたゲゲゲの女房——僕は、この番組、NHK朝の連続テレビ小説の中で過去最低であった初回視聴率14.8%の第1回目からみていた。理由は、日経で連載されていた水木しげる氏の「私の履歴書」が、僕の中では歴代1位のおもしろさだったからである。そこで、この番組が始まる前から、ゲゲゲの女房は久しぶりにおもしろい連続テレビ小説になるからと言って、初回からみるように会う人会う人に勧めていた。そして、案の定、なんだか、日本中が盛り上がることになってしまっていた。平均視聴率が18.6%、最終回は番組最高の23.6%ともなれば、まあ、雑談時に話題に出しても、だいたいの人が、あああのことかと分かってくれるようになる。

ということで、有名になったドラマをネタに、授業や飲みに行ったりしたときに話していたことは、ゲゲゲの女房と経済成長という話である。

主人公の武良布枝さんと水木しげる氏が結婚をしたのは、1961年。その時の彼らの家の中の様子は？

実際のところな～んにもない。電話もなければ、洗濯機もなければ、な～んにもない。新婚当初の彼らが貧乏だったということよりも、あの時代には、みんながみんな、電話もなければ、洗濯機もなんにもなかったわけである。ドラマの中では、車やエアコンなんてのは、随分と後になって登場する¹。

でも、最終回の頃には、家の中には、なんでもかんでも揃っていた。

はい、この変化、いわゆる生活水準の向上(?)が、経済成長なんだよなと——本当は、生活水準の向上というよりは、便利さの向上と言いたいところだけど。便利にはなったけど、生活水準が向上して豊かになったかどうかは分からないからね。。。

¹ ちなみに、高度経済成長を牽引した三種の神器は、
1950年代後半 白黒テレビ、洗濯機、冷蔵庫
1960年代半ば カラーテレビ、クーラー、自動車。

でっ、僕が今、中国やインドに行けば、ゲゲゲの女房が結婚した頃の、あのな〜んにもない家を、数多くみることができると思う。そんなところだったら、日本で1960年の国民所得倍増計画が想定した、10年間で所得を2倍にする、年率7.2%成長の実現も夢ではない。でも、ゲゲゲの女房の最終回時の家の中のように、多くの家の中で消費が飽和している今の日本で、大きな経済成長を公約に掲げてみても、その実現は無理に決まっている。4%だ5%だの経済成長を！と唱える政治家さんたちがいたら、今年から来年にかけて僕らの生活水準をどうやってそんなに大きく引き上げてくれるつもりなの？と聞きたくなる。

せいぜい出来ることは、まだ消費が飽和していない「人」や「サービス」に、死蔵している所得を移転して需要を創出することくらいなわけで、それが所得再分配を通じた積極的社会保障政策という話になるわけである。でも、積極的社会保障政策を実行できたからと言って、耐久消費財がどんどんと登場し、それを購入する人口も増加しており、一人一人のライフスタイルは大きく変化していた時代ほどの成長を保証できるはずがない。僕が、成長戦略！と連呼する政治家や多くのエコノミストを小馬鹿にしている理由は、そのあたりにある。

一昨日の北大シンポでも使ったスライドをアップしておきます。ささやかなことであっても、他に選択肢もないから行うべきことは、社会全体の消費性向を高めること。消費性向の高まりが、ほんのわずかであっても、それが国民所得に与える累積効果は、無視するにはもったいない大きさをもっているものだと思うよ——他にこれと言った手段もないんだし。

持続可能な中福祉の経済への影響は？

ケインズ(1936年)『雇用、利子、及び貨幣の一般理論』

- 完全雇用が達成されるまでは、資本成長は低い消費性向に依存するところか、かえってそれによって阻害され、低い消費性向が資本成長に寄与するのは完全雇用状態の場合だけだ…。そのうえ経験の示すところによれば、現状では、諸機関の貯蓄および償還基金という形をとった貯蓄は適量を超えており、消費性向を高めそうな方向で所得の再分配政策が採られれば、資本成長に断然有利に作用することになる。



有効需要政策と経済政策 ハンセン・サミュエルソンモデル

- 所得の定義式
 - $Y_t = C_t + I_t + G_t$ ①
- 消費関数
 - $C_t = \alpha Y_{t-1}$ ②
- 投資関数——加速度原理
 - $I_t = \beta(C_t - C_{t-1})$ ③

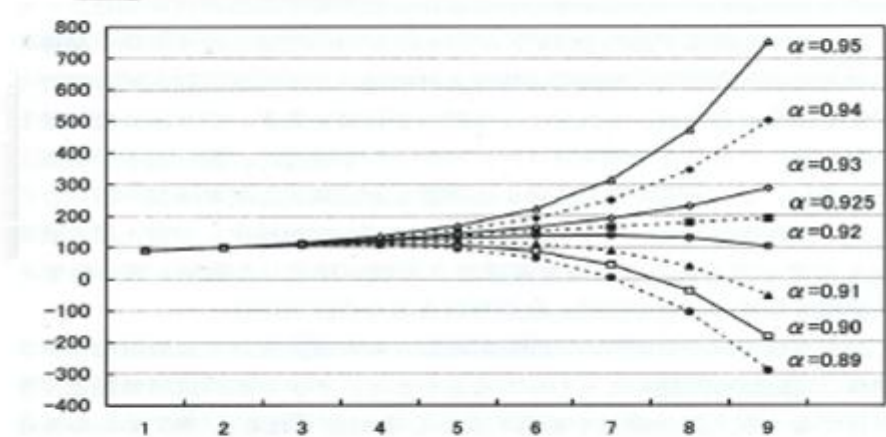


シミュレーション

- かつては、 α 、 β を固定して、 Y を予測。
- しかし、 α 、 β が時とともに変動したために予測は失敗。
- ここでは、消費性向 α が Y の変化にどのような影響を与えるかをみる。
- 仮定
 - $G=0$
 - 加速度因子 $\beta=2$
 - $Y_{t-2}=90, Y_{t-1}=100$



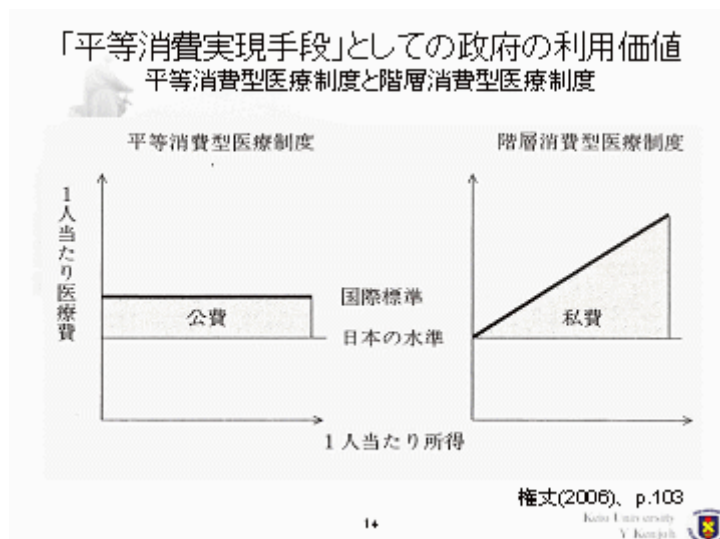
消費性向の国民所得への累積効果



辻村江太郎『はじめての経済学』230頁



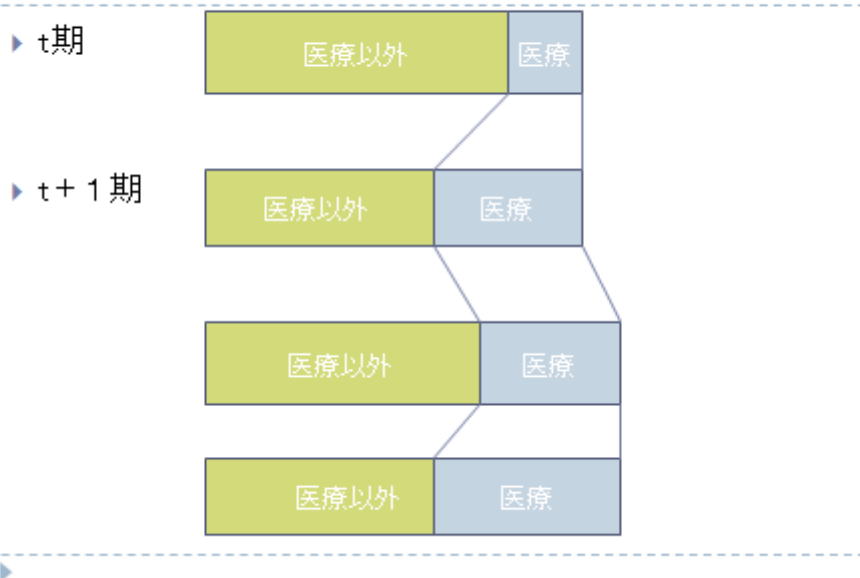
それと、昔から言っていることで、一昨日の北大シンポでも言ったことだけど、たとえば、医療費が増えたとしても、その医療費の増加分が、他の財・サービスの消費を減らしている場合は、その時、経済成長が起こったとは言わないんだよね。その増加した医療費が、次の図にみるように、公的医療費であれ、私的医療費であれ、他の需要を減らしているのならば、同じこと。



成長産業と経済成長の話をしたいのならば、次の図にあるように、医療費が伸びた、その時、他の財・サービスの需要が増えたとか、医療費が増えた、それでも、他の財・サー

ビスの需要は変わらなかったと言わないとな。

成長産業と経済成長との関係



とにかく、有効需要がないと経済ははじまらないもんだ——この当たり前の考え方を、世の中ではケインズ経済学というらしい。

参考までに

勿凝学問 323 [無人島で商売をしると急かしても無理があるだろう](#)

勿凝学問 322 [小さな政府で成長するって、どういうふうにするんだ？——ゆたかな社会における3つの経済運営](#)

勿凝学問 313 [足りないのは、投資か消費か？——誤解の源はケインズの言葉だろうな](#)

勿凝学問 172 [積極的社会保障政策という景気対策——社会保障重視派こそが一番の成長重視派に決まってるだろう](#)